

<令和7年12月定例記者会見>

1 開催日時

令和7年12月5日（金）午前10時30分～午前11時10分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、河北新報社

4 発表事項

冒頭、市長から中心拠点商業地区整備の進捗状況について話があった。

（1）滝沢市産業分野地域おこし協力隊の委嘱について（農林課）

この度、本市の農業分野における課題解決に寄与できる人材を募集し、選考をおこなった結果、応募者1名への委嘱を決定しました。滝沢市として5人目となる地域おこし協力隊員が今月より活動を開始いたしますので、お知らせいたします。

地元の農業者の元で農業研修を行っていただくなど、地域の皆さんと繋がりを持ちながら、地域の魅力を情報発信し、農業が儲かるような新たなしきみの構築に向けて取り組んで頂きます。

活動にあたりましては、地域の皆さんと交流をしながら活動を行うこととなりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

（2）令和7年度滝沢市特産品開発アイディアコンクールの募集について（観光物産課）

本市では、滝沢市の新たな土産品の開発を促進し、魅力を伝えるため、市にマッチした愛される「お土産」のアイディアを募集し、最優秀作品を決定するためアイディアコンクールの募集を実施しております。

令和7年12月1日から募集を開始しており、応募期限は、令和8年1月31日（土）の17時までです。

応募資格は、滝沢市に在住、若しくは滝沢市内に通勤・通学しているグループまたは個人となっております。多くの皆様のご応募をお待ちしております。

（3）滝沢はるかの販売について（観光物産課）

本年も滝沢はるかを販売いたします。一般社団法人滝沢市観光物産協会では、滝沢市内で収穫されたりんご「はるか」を、糖度計・蜜入りセンサーで計測し、厳しい基準で選別した高品質のものを「～黄金の濃蜜りんご～プレミアム滝沢はるか」、「そばかすはるか」、「滝沢はるか」として販売します。

ネットショップ「チャグまるしぇ滝沢」と「チャグチャグ屋」では、12月7日（日）午前10時から、ビッグループ滝沢の産直「たきざわキッチン」では、同日の午前9から、各々数量限定で販売を開始いたします。

現在、市内産直では今回選果した「はるか」を始め、その他美味しいりんごが好評販売中です。この時期旬を迎えている滝沢市産りんごを是非お買い求め下さい。

（4）たきざわ旬の味覚マルシェの開催について（観光物産課）

令和7年12月18日（木）から12月21日（日）まで、銀座にある岩手県のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」を会場に、「たきざわ旬の味覚マルシェ」を開催します。

11月下旬から12月初旬にかけて収穫した「滝沢はるか～黄金の濃密リンゴ～」をはじめとするリンゴやサツマイモなどの旬を迎えた滝沢の味覚のほか、特産品開発補助金を活用して開発したリンゴジャム、スイカ缶詰などの特産品加工品を販売します。

滝沢はるかは、首都圏にはほとんど出回らない大変貴重なリンゴですので、皆様ぜひ足を運んでいただき、滝沢の旬の味覚をお買い求めください。

（5）「滝沢ミライプロジェクト2025」中間発表会の実施について（若者活躍推進室）

本市では、地域に興味を持つ学生が地域づくり活動に関わる機会を提供することで、若者が地域の方々とつながり、滝沢市へ愛着をもち、自らの視点を取り入れ活躍する場を創出することを目的とした「滝沢ミライプロジェクト2025」を実施しております。

参加している高校生や大学生の6チーム9名は、令和7年10月から活動を開始し、これまで、やりたいことをグループになって話しあうことで整理する（アイデア発表会）や、市内の施設見学や地域の人から話を聞くことを目的とした（滝沢探検）を行いました。

そして、今回12月6日（土）に滝沢市IPU第2イノベーションセンターにおいて開催する中間発表会では、取り組みたいテーマや今後の実践活動、ロードマップについて発表し、チームの決意表明をします。ぜひ、学生の想いをお聞きください。

なお、今後は2月下旬までチーム活動を行い、3月には最終成果発表会である「プレゼンコンテスト」を開催する予定です。

事業の周知及び当日の取材について、よろしくお願ひいたします。

（6）市内中小企業のIT・DX化に向けたセミナーの開催について（企業振興課）

市では、今年度より岩手県立大学及び滝沢市IPUイノベーションパーク内で活動しているIT企業のポテンシャルを活かし、市内中小企業等におけるIT・DX化に向けた課題解決やIT人材の育成を図ることを目的とし、IT産業人材育成モデル事業の「IT(アイティー)BREDGE(ブリッジ)BASE(ベース)」を開催しております。

本事業は、県立大及びパークに立地する多くのIT関連企業が、市内中小企業における企業の課題解決の支援し、IT産業人材を育成する本市の特色を活かしたモデル構築事業であり、事業の推進において対象とする市内中小企業だけではなく、支援するIT企業や県立大学生の人材育成を図るもので

9月5日に行われた第1回目のセミナーでは17社25名の参加があり、AIの可能性や、実際にAIを使った内容となり好評をいただきました。その後、県大生のアルバイトを採用しながら、3社への具体的な個社支援を行っているところです。

今回は第2回目となり、来年2月6日（金）、さらにAIを日常の業務に「どう活かすか」をテーマに開催いたします。募集は今月より行いますので、事業の周知及び取

材についてよろしくお願ひいたします。

(7) 葉の木沢山活動センターへの非常用発電設備の設置について（防災防犯課）

本市では、葉の木沢山活動センターへの非常用発電設備の整備を今年度に進めております。

滝沢市内に事業所を有する株式会社やまびこが新技術を用いて開発した発電システムとなります、導入事例は滝沢市が全国初となります。

このことに伴い、株式会社やまびこ代表取締役社長が滝沢市長を表敬訪問し、現地においてシステムの説明を行うとともに、システムの活用について対談予定となっております。

この機会に、各報道機関の方々にも非常用発電設備をご覧いただけますと幸いです。当日の取材につきまして、どうぞよろしくお願ひいたします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：特産品開発アイデアコンクールについて、今回で何回目なのですか。どのような狙いがあるのですか。

観光物産課長：今回で初めての開催です。以前から、滝沢市では年間を通じて提供できる土産が少ないという話があり、新たに考案するにあたり、具体化するのに皆さんからアイデアを募集したいということでスタートしました。

記者：応募方法などを教えてください。

観光物産課長：観光物産協会のホームページに応募要項などを掲載していますので、ご覧いただければと思います。

記者：たきざわ旬の味覚マルシェについて、例年開催しているのですか。昨年も、滝沢はるかの販売はありましたか。

観光物産課長：コロナ禍後の夏に開催し、冬の開催としては昨年に引き続き2回目です。

滝沢はるかは昨年も販売しました。

記者：滝沢ミライプロジェクトのプレゼンコンテストは、一般の人も観覧可能でしょうか。

若者活躍推進室総括主査：はい。参加している学生だけではなく、県内で活躍する学生もお声掛けし、県内の学生が生き生きとかつどうしてきましたということを発表できる場にできたらと考えています。詳細は、開催が近くなりましたら情報提供できるよう進めているところです。

記者：IT BREEDGE BASEについて、3社へ個社支援とあります、チラシ裏面の2社限定のITよろず相談会とはどのようなものですか。

企業振興課総括主査：個社支援とよろず相談は別のものとなっています。個社支援といった詳細な支援は、前回の1回目を踏まえて具体的にヒアリングをしながら、3社へ支援しているのものとなります。ITよろず相談会は、現地にいるITサポーターにその場でアドバイスをもらうものです。個社支援は現在行われている3社のみとなっています。

記者：3社への個社支援の今後のスケジュールを教えてください。

企業振興課総括主査：個々の会社にもよりますが、ヒアリングが進み、3社とも提案書の提出が終了しました。今後は、聞きたいことなどの問い合わせがあれば都度対応して

いく流れとなります。

記者：これから、3社が提案書を基に活動していくということでしょうか。

企業振興課総括主査：はい。実施にどのような経費がかかるのかなども書かせていただきましたので、それを基に各社で検討し、順次活動する予定です。市では、個別具体的動きについては、まだ把握しておりません。

記者：非常用発電について、全国初とのことですですが、開発されたばかりのものということでしょうか。

防災防犯課長：はい。新たに株式会社やまびこのソリューション部門で開発したマルチハイブリットシステムというシステムです。これを全国初、世界初ということで導入します。

記者：このシステムの強みはどのような点ですか。

防災防犯課長：当然、晴天時には太陽光によって直接電力を供給します。重要なのは、指定避難所ですので、停電時にも蓄電したものを必要な時に発電機を稼働しながら運用できるという点で避難所にとても有効なシステムと考えています。

市民環境部長：使用可能時間ですが、最低限、人命救助のデッドラインである72時間はクリアでき、1週間は使用できるというご説明を聞きました。天候状況にもよりますが、1週間晴天が続ければ、燃料次第では、1カ月くらいは使用できるという話もありました。

記者：滝沢はるかについて、夏の高温による生育への影響はありましたか。

経済産業部長：全体個数が少なくなっています。高温障害や、カメムシの影響等も様々受けておりますので、少なからずそれらの影響はあります。しかし、はるかは、寒暖差で糖度を上げるので、リスクもありますが、最後まで樹に吊るしておくという意味では、本年は糖度が上がったのではないかと思っています。全体でみると影響はありましたが、より糖度の高いプレミアム滝沢はるかに関しては、最後の各農家の頑張りで多くなっていると思います。産直で試食させてもらったりしているが、かなり糖度があって美味しいりんごになっているので、皆様にもぜひ食べていただきたいと思います。

市長：静岡県菊川市でりんごの直売を行ってきました。市内のりんごの様々な品種を試食させてもらいましたが、本年は糖度が上がっている印象です。はるかだけではなく、お配りしているパンフレットにもありますが、他にも、本当に沢山の品種を市内で作っています。それぞれ特徴があり、商品開発にも活かしています。滝沢には、はるか以外にも沢山のりんごの品種があるということを知っていただき、宣伝していただければと思います。

6 その他記者からの当日質問

記者：りんごの販売先について、県外や海外へも販売しているのですか。以前、台湾のスーパーで日本のリンゴが沢山販売されていたので気になりました。

経済産業部長：基本は県内への販売となっています。滝沢市のりんご農家の特徴として、顧客を既に沢山抱えているといった特徴があります。県外も含め、我々も全て把握はできていませんが、贈答用なども、各農家が個別に契約して進めている状況です。あ

とは市内の産直やスーパー、県外については、滝沢はるかには、東京にも販売先があります。数量も考慮し、現時点では、基本は県内です。市長も申し上げましたが、菊川市に行って販売しましたが、評価は高いです。本当に欲しい方々は、農家と直接契約していますので、そういった中での販売ルートということになると思います。

記者：市長に伺いたいです。この1年を振り返って、クマの被害など様々ありましたが、課題や苦労された出来事は何でしたか。

市長：政権が変わったことに関しましては、我々もこの後どうなるのか、どの党とどの党が一緒になっていくのか不安になった部分もありました。また、国の政権運営がしっかりとしていると我々も自信をもって政策を実行していく感じました。どの政党という話ではなく、日本全体や、地方が抱えている課題を詳しく見てほしいと感じました。人口密集地帯や、大阪万博など人が多く集まる事業については、広く動きが出てくる一方、地方では様々な災害（大船渡の林野火災など）に併せてクマの課題など、様々ことが起きた一年であったと思っています。奥羽山脈でのクマの数は増えてきているという印象です。まだ冬眠しないような状況で、市民の命や、駆除・捕獲してくださる人の少なさについて様々な思いがありました。ライフル銃の規制に関しては、的確に行われてきたからこそ、国内での安心は保たれてきたと思っています。そこを堅持しつつも、地方で駆除・捕獲してくださる方をどう育成していくかについては、様々なことを学ばせてもらいました。まず、法整備や、今後も安心してクマの対応にあたっていただける方々を増やしていくかなくてはいけないと思っています。また、人口減少は大きな課題ですが、国力をどう作っていくか、その推進力をどこにどう作り、技術開発や研究開発といった人の「知」をどう支援していくかを政府も注目していただきたいと思っています。島国であること、人口減少や気候変動といった様々なことに対応しながら、国内全部が活力を持ちながらやっていくという政治運営を国にも提言していきたいと思います。1自治体にも活力を作っていくことはできると思いますので、周辺市町村と連携しながら、今後も模索していきたいと考えています。

記者：クマ対策について、財源が不足している自治体もあるということで、宮古市や紫波町がクマ対策に特化したふるさと納税を開始したと伺いました。滝沢市での予定はあるのでしょうか。

経済産業部長：現時点では、そこまで詰めた議論はしていませんが、今後、被害に対する資金が必要という点では、検討の余地はあると考えています。